

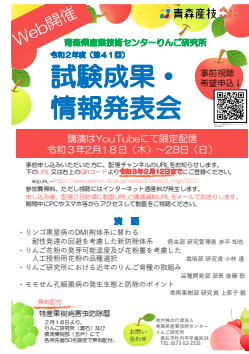
りんご研究所ニュース

No.92

2021.3.30

コロナ禍の中...

【令和2年度(第41回) 試験成果・情報発表会】



令和2年度試験成果・情報発表会は、新型コロナウイルスの感染リスクを少しでも避けるため、会場での開催を見合わせることにしました。その代わりとして、初めての試みとなるWEB開催とし、2月18日から28日まで限定配信しました。

なお、視聴に必要な配信チャネルのURL取得のために事前に申込さ

れた件数は、県内外から約300件ありました。今回の講演は4課題で、病虫害部の赤平研究管理員が「りんご黒星病対策を強化した春季の防除体系」、栽培部の小林研究員が「人工授粉に適するりんご花粉の探索」、低温発芽性及び花粉量に着目して、「品種開発部の後藤部長が「りんご研究所における近年のりんご育種の取り組み状況」、県南果樹部の上原子研究員が「モモせん孔細菌病の発生生態と防除のポイント」について、それぞれ発表した動画を配信しました。

多くの方に視聴いただき、ありがとうございます。来年はコロナが終息して、また、例年どおり会場で開催できることを願っています。

【おうとう「ジュノハート」普及促進研究会生産技術研修会及び総会】

3月22日に、県南果樹部において、おうとう「ジュノハート」普及促進研究会主催の第2回生産技術研修会を開催し、約60名が参加しました。



昨年は、「ジュノハート」の最上位等級品の「青森ハートビート」が全国

デビューを果たし、高い評価を得ました。しかし、現地においては、一部で降霜や開花期の高温による結実不良、日照不足による着色不良などが問題となりました。そのため、今回の研修会では、凍霜害対策や結実確保対策などについて、土嶺研究管理員らが説明しました。



その後、圃場において、5年生になる「ジュノハート」の台木別の生育状況を確認しながら、意見交換が行われました。

研修会終了後に、同研究会令和2年度総会を行いました。原案どおり了承されました。

【青森県ぶどう立木品評会表彰式及び講演会】

1月25日、青森県ぶどう対策協議会が主催する青森県ぶどう立木品評会の表彰式があり、工藤所長の審査講評の後、6名に本賞と特別賞が授与されました。受賞者6名のうち、4名が「シャインマスカット」での出品で、全国的に人気の高い同品種の栽培が本県でも年々広まっています。

表彰式終了後、県南果樹部の對馬主任研究員が「ぶどうの高品質生産に向けた病害虫防除対策等について」と題して基調講演を行いました。



【スマート農業セミナー】

2月5日、青森県総合社会教育センターにおいて、県農林水産政策課主催の「青森県スマート農業推進セミナー」が開催され、栽培部の坂本研究管理員が「自動草刈り機によるりんご園地の草刈り作業の軽労化」について、実証試験結果を報告しました。



また、同月25日に弘前市民会館大ホールにおいて開催された弘前市主催の「第4回りんご産業イノベーションセミナー」において、同研究管理員が「りんご栽培における

スマート農業の可能性」と題し、講演をしました。当研究所では、今後新たな技術の情報収集と実用性の検証を進めていく予定です。

【令和2年度りんご病害虫マスター修了式】

2月26日に、青森県りんご協会講堂において、令和2年度りんご病害虫養成事業修了式が執り行われました。各市町村から推薦を受けた43名が病害虫マスターに認定されました。



写真提供：(公財)青森県りんご協会

本年度は県外研修がコ

ロナで中止になったものの、当研究所職員による全8回の講義を無事に終え、りんごの病害虫防除の基礎を学びました。修了式では、工藤所長が講師陣を代表して、お祝いの言葉を述べました。新しく認定されたマスターがそれぞれの地域で活躍なさることを期待しています。

【学位取得者の紹介】

病虫部

石栗 陽一 研究管理員

平成31年4月から令和3年3月までの2年間、筑波大学大学院生命環境科学研究科生物圏資源科学専攻博士課程を修了、博士(農学)の学位を取得しました。

特に今年度はコロナにより、通常は大学に中期滞在して、集中的な論文執筆と教授による直接指導を受けますが、4月以降大学への入校禁止、セミナー・ゼミはオンラインで実施(ゼミはすべて

英語による討議)、各種学会の中止など大変な状況の中で、無事終えることが出来ました。

学位論文のテーマは、「リンゴ果実の防御反応による幼虫の発育阻害がモモンクイガの生活史におよぼす影響」です。



今後の試験研究に生かしてくれることを期待しています。

なお、当研究所における博士(農学)の学位取得者は、今回の石栗研究管理員を含めて合計7名となりました。

【お悔やみ】

りんご試験場OBの三上敏弘氏が1月10日に永眠されました(行年94歳)。同氏は昭和30年栽培科に採用され、同53年から栽培部長、同57年次長、同58年から畑作園芸試験場長、同63年に退職されました。その後も青森県りんご協会参事、弘前市りんご公園の専任指導員として活躍されたほか、数多くの執筆活動にも精力的に励まれるなど、りんご産業の発展に大いに貢献されました。

ここに謹んでご冥福をお祈りいたします。

【編集後記】

今年度は、新型コロナウイルスにより、各種イベントが中止や延期となり、一部オンライン開催で対応するなど、今まで経験したことがなかった年でした。来年度はコロナも終息し、良いニュースが掲載できるよう願うばかりです。(K)